

# 地域との共生

平成20年度  
秋田大学社会貢献推進機構  
活動報告



地域アカデミー卒業式での記念撮影

# 目次 CONTENTS



---

はじめに	1
秋田大学社会貢献推進機構の目的	2
平成20年度の活動実績	
1. 公開講座	3
2. サテライト事業	6
3. 秋田大学地域アカデミー	10
4. 講演会等	11
5. その他の活動	12
参考資料	
社会貢献事業の実施状況一覧	18
社会貢献企画会議委員, 社会貢献推進機構 職員	19
平成20年度社会貢献事業ポスター (一部)	20
公開講座アンケート集計結果	24

## はじめに

平成 16 年度に国立大学が法人化されたことに伴い、社会貢献というキーワードは文部科学省も強く意識し、各大学の努力を促している。秋田大学は、平成 16 年度から新たに社会貢献推進機構を立ち上げ、地域との連携、地域への貢献を目標に活動を開始した。最初の 2 年間は手探り状態での活動であったが、3 年目、4 年目は妹尾機構長のリーダーシップの下で多くの事業を開催し、地域との連携を醸成することができた。5 年目となる平成 20 年度には新学長から吉村プランが提示された。社会貢献に関しては「公共的な知の拠点として大学開放事業の推進や学術情報の提供、医療・福祉の充実、産業振興への参画をおこない、地域の活性化に積極的に取り組む。そのために大学が基幹となり、保有する資源の活用・提供を積極的におこなう」と謳っている。このプランに沿うようにして、具体的な活動としては公開講座、サテライト事業、講演会などのほか小中高生を対象とした教育プログラムや科学教室を実施した。個々の活動は本冊子に記してあるが、平成 20 年度の特徴的な活動を列記すると、「地域アカデミー」がまず挙げられる。企業への業務委託による新たな企画で、JTB に全国への広報を委託し、行った。一般の人を対象に大学での授業、フィールドワークを主体として、秋田の文化や歴史、資源を 1 週間にわたって提供するものであり、秋田大学や秋田県を広く知ってもらう点で意義あるものであった。また、国際的な貢献を視野にいれ、「JICA を学ぼう！秋田大学からの発信」と題するシンポジウムを開催した。青年海外協力隊として参加経験のある本学学生に企画・立案を任せ、我々は側面からサポートする体制で臨んだが、内容もしっかりしており、学生の能力が発揮されたよい企画であった。

この冊子は平成 20 年度に社会貢献推進機構が行った活動を整理したものである。ご意見並びに今後実施してはどうかという企画等を是非お寄せいただきたい。

社会貢献推進機構の業務は平成 21 年度から教育推進課社会貢献推進室が行うことになる。地域との連携や社会への教育・研究資源の提供は引き続き大学にとって重要な使命であり、これまでの活動の質や量を向上させることと併行して、大学コンソーシアムあきたとの連携を図るとともに、包括協定を締結している自治体との共同を視野に入れながら新たな社会貢献を推し進めていく必要がある。そのためには今後も教職員の全面的な協力をお願いすることになるだろうが、公開講座や講演会、体験学習などへの積極的な関わりを持っていただければ幸いである。

社会貢献推進機構長 吉岡尚文（副学長）

## 社会貢献推進機構の目的

社会の文化・科学・経済が円滑に循環するよう、本学の豊富な学習資源を有効に活用、提供すると共に、本学の人材が有する知識・技術などの資源を継承、発展、環流させ、社会のニーズと調和を図りながら地域の振興と創造に貢献する。

### 上記目的を達成するための目標

#### 1. 地域貢献

##### (1) 教育活動による貢献

- 1) 小中高生の科学的思考や研究・学習への動機付けを促す。
- 2) 大学での体験学習を積極的に実施する。

##### (2) 研究活動による貢献

- 1) 医学、医療、保健、福祉等の研究成果を基盤に地域医療の総合的な支援をする。
- 2) 共同研究や受託研究を推進し、地域産業活性化に寄与する。
- 3) 技術相談への対応を充実すると共に、企業等からのニーズを把握し還元する。広報活動を通じて本学の研究活動や大学のシーズ、研究成果を積極的に発信・公表する。
- 4) 学識や高度な技術が求められる国内外の審議会、委員会、調査活動等に協力する。
- 5) 国際機関、国、自治体、民間機関が主催する企画に人材を派遣する。

#### 2. 生涯学習

##### (1) 教育活動による貢献

- 1) 社会全体の生涯学習が円滑に実施されるよう、生涯学習を推進できる人材を養成する。
- 2) 生涯学習機能を充実させ、社会の要請に応えるカリキュラムや学習技法を編成する。
- 3) 自治体や他大学等と連携し、要請に対応した学習領域を提供する。
- 4) 地域に特化した課題を取上げ、学習者の公共性を養い、協働による社会参加を支援する。
- 5) 図書館や博物館、付属する各種センターを地域の学習、情報の拠点として解放する。

##### (2) 研究活動による貢献

- 1) 優れた研究実績と研究資源を通じ、学外研究者に継続的な指導を行う。

## 平成20年度の活動実績

### 1. 公開講座

平成20年度は計7講座実施し、うち3講座は「大学コンソーシアムあきた」との共催により、カレッジプラザを会場に実施した。また、秋田県が制定した「あきた教育の日（11月1日）」に協賛した講座を2講座実施した。講座毎に受講者からアンケートをとっており、その結果を交えながら各講座について振り返ってみる。

なお、受講者には学長名で修了証書または受講証書を授与した。

#### (1) 近世の日本音楽一粋と人情の娯楽世界一

実施日 平成20年6月7日（土）～7月19日（土）

毎週土曜日 計6日間（6月28日（土）を除く）

会場 秋田大学

担当講師 教育文化学部 准教授 武内 恵美子

一昨年から行っている日本音楽史シリーズの3回目で、今回は近世の音楽文化をテーマとした。近世、すなわち江戸時代の文化は庶民が主体となって発展するが、そのなかで音楽がどのように展開したのかを、音そのものだけでなく、歴史的・社会的視野も取り入れながら紹介。受講生からは「珍しい和楽器に実際に触れられて良かった」「歌舞伎や文楽など、日本固有の音楽への認識を新たにしたい」などの声が聞かれた。



#### (2) 電気電子工学の世界

実施日 平成20年6月20日（金）～7月16日（水）

毎週金曜日 ※最終日のみ水曜日 計5日間

会場 秋田拠点センター アルヴェ

担当講師 工学資源学部 准教授 山口 留美子

教授 小原 仁

講師 三浦 武

教授 鈴木 雅史

教授 今野 和彦

毎日私たちが恩恵を受けている高度なエレクトロニクス製品や通信サービスなどの中からいくつか身近なものに焦点をあて、その原理を直感的に理解できるように「解剖」した講座である。技術発展の解説を通して、電気電子工学の進化のスピードを感じ、未来の世界を想像するのに役立つ講座だったとの評価を得た。

### (3) 健康と生活を考えるー秋田でよりよく生きるためにー

実施日 平成20年9月27日(土)～10月18日(土)

毎週土曜日 計4日間

会場 秋田大学



担当講師 医学部保健学科

教授 工藤 俊輔

助教 若狭 正彦

助教 高橋 恵一

助教 石井 奈智子

助教 阿部 緑

准教授 佐々木 久長

助教 成田 好美

講師 煙山 晶子

秋田県は、自然が豊かで固有の文化や風土を持っているが、その一方で、抱える問題点として、健康と生活では少子高齢化の進行、高い自殺率、塩分摂取量の多さ、保健医療面ではがん・脳卒中・心筋梗塞の死亡率が高いなどの地域特性が挙げられる。そこで本講座では、秋田における健康と生活を見つめ直し、秋田でよりよく生きるための方法について、保健医療の専門職が講義(一部実習を含む)をした。

受講生からは、「仕事に活かしたい」「初めて学ぶことも多く有意義であった」などの感想があるなど、充実した内容であった。

### (4) 東アジアの文化と社会

実施日 平成20年10月7日(火)～12月9日(火)

毎週火曜日 計10日間

会場 カレッジプラザ

担当講師 教育文化学部 教授 長沼 雅彦

教授 石川 三佐男

准教授 高村 竜平

講師 内田 昌功

教授 吉永 慎二郎

東アジアの文化と社会を中国古典文学研究、中国思想史研究、中国歴史研究、書学、朝鮮研究という各分野の視点から、最新の研究成果をふまえて具体的なテーマを設定し、それを切り口としてその文化の特質と社会の実像にアプローチした。多様なテーマでの熱心な講師陣の講義には受講生も満足度が高かったようで、受講生自身も勉強家な方々が多く、知的好奇心を大いに満たされたようであった。

#### (5) 総合自殺予防学インテンシブコース

実施日 平成20年10月10日(金)～11月14日(金)  
毎週金曜日 計5日間(10月31日(金)を除く)

会場 カレッジプラザ

担当講師 防衛医科大学校 教授 高橋 祥友  
弁護士 荏原 正道  
秋田大学医学部 准教授 金子 善博  
秋田大学医学部長・教授 本橋 豊  
慶應義塾大学 教授 大野 裕  
東京大学大学院 教授 川上 憲人



本年度、大学院医学系研究科に「自殺予防学系クラスター」が設置されたことに伴う開講である。本講座の対象者は、現場で自殺予防対策に関わっている実務の専門家であったが、国内第一線で活躍する講師陣の熱意溢れる講義は大変好評で、継続を望む声も多かった。

#### (6) 「文学」は何を食べてきたのか？－英・米・露文学に見る食生活と文化－

実施日 平成20年11月5日(水)～12月17日(水)  
毎週水曜日 計7日間

会場 カレッジプラザ

担当講師 教育文化学部 准教授 大西 洋一  
准教授 長谷川 章  
准教授 村上 東

「あきた教育の日」協賛講座である。小難しいと思われがちな欧米文学について、身近な食生活という切り口で探った。イギリス・アメリカ・ロシア文学と食生活との関わりについてそれぞれ2回ずつ講義が行われ、最終回は講師3名によるシンポジウムが行われた。シンポジウムでは、講義に対する受講者の感想や質問を直接聞く時間をもうけ、食生活と文化について考える機会とした。アンケートでは「意外な発見があり、読書の幅が広がった」「歴史と食生活の関連は興味深かった」との意見があり、また、もっと深く学びたいため続編を希望する、時間数を増やしてほしいなどの声が聞かれ好評であった。

## (7) 長寿社会における「老い」と「病」を考えるー明るい人生を過ごすためにー

実施日 平成20年11月20日(木)～12月4日(木)

毎週木曜日 計3日間

会場 秋田大学

担当講師 教育文化学部 教授 渡部 育子  
准教授 和泉 浩

「あきた教育の日」協賛講座である。長寿医療制度（後期高齢者医療制度）、年金記録、メタボなど、老後の生活や健康への関心は高まる一方であるが、本講座では「“老い”の歴史学的アプローチ」及び「“病”と“健康”の社会学的アプローチ」により長寿社会について講義した。

## 2. サテライト事業

秋田県内および首都圏へ向けて、秋田大学の教育・研究・社会貢献についての活動状況を発信することを目的として行っている。本年度は、東京都、大仙市、八峰町、横手市でそれぞれ実施した。

### (1) 東京サテライト教養セミナー「秋田学」を学ぶ

実施日 平成20年9月19日(金)・26日(金) 計2日間



秋田大学東京サテライトオフィスが入居するキャンパス・イノベーションセンター東京を会場として、首都圏に向け秋田大学の教育・研究・社会貢献についての活動状況を発信することを目的として下記のとおり実施した。

当日は、首都圏在住の秋田県出身者、秋田大学同窓会（北光会、旭水会）の方が多数参加した。

#### 1) 9月19日(金)

「白神山地のブナ林」

講師 教育文化学部 教授 井上 正鉄

1993年4月に世界遺産に登録された白神山地はどのような点が評価されたのか、つまり白神山地の世界遺産たりうる価値に言及し、また生物多様性の保持に大きく貢献している秋田のブナ林について、植生学的に概要を述べた。さらに、それら天然林の森林構造が効率よく光合成を行っていることを示し、秋田の森林が地球温暖化防止に大きく貢献していることを紹介した。



「八郎太郎伝説と巨大噴火—秋田県におけるジオツーリズムの可能性—」

講師 教育文化学部 教授 林 信太郎

915年に起こった十和田湖での巨大噴火は、過去2000年間の日本で起きた最大の噴火であり、平安時代の人々に与えた被害は甚大であったことが発掘の結果分かっている。一方、この噴火についてはわずかな古記録しか残されていない。本講演では、八郎太郎伝説とこの噴火の関係について検証し、また、巨大噴火をコンテンツとしたジオツーリズムの可能性についても言及した。

2) 9月26日(金)

「秋田県仙北地方の芸能の伝承と変容」

講師 教育文化学部 教授 桂 博章

地域に住む人々の生活と深く結びついて育まれてきたと言われている民謡や郷土芸能は、農村の生活様式の変化と共にその担われ方や伝承のし方、演奏自体は変化してきた。本講演では、秋田県仙北地方の民謡や踊りが時代の変化に対応し、演奏や担われ方が変化していった過程に迫ることにより、現代における郷土の芸能の伝承や保存の方法について考えた。また、音楽教育全体のあり方について言及すると共に、郷土の芸能の持つ教育的役割についても解説した。



「秋田の『県民性』言説の創出と方言」

講師 教育文化学部 准教授 日高 水穂

秋田で人気のローカルヒーロー「超人ネイガー」や、2007年度に秋田県が立ち上げた「秋田人“変身”プロジェクト」を「県民性」言説創出の一事例ととらえ、そこで象徴的に利用される「方言」の機能について解説した。「秋田人“変身”プロジェクト」では、秋田県人の「県民性」として、秋田弁で「ひやみこぎ(怠け者)」「ええふりこぎ(見栄っ張り)」を短所に挙げたが、そのような方言の発達や、怠け者を追放するなまはげ行事の存在などは、むしろ秋田に怠け心を嫌い、戒める文化が根付いているからと分析し、秋田の県民性がそのプロジェクトにおいて“作り上げられてしまった”のではないかと警鐘を鳴らした。

## (2) 秋田大学・秋田県立大学連携事業in大仙市

実施日 平成20年10月31日(金)・11月1日(土) 計2日間

秋田県立大学との連携事業は昨年度に引き続き2回目の実施であり、初日はバイオ燃料をテーマに両大の教員による講演と座談会を開いた。2日目は、医学領域からヒトの赤血球についての謎、また工学系からは菜の花を活用することの可能性についての講演があった。

なお、実際に金属を溶かして固めてアクセサリーを作る子ども向けものづくり教室は、秋田大学のみ主催で行った。



### 1) 技術フォーラム

テーマ「バイオ燃料は世界を救う?—秋田からの発信—」

I. 話題提供 司会進行 秋田大学産学連携推進機構長 濱田 文男

“菜の花”を科学する

「菜の花栽培の豆知識」

講師 秋田県立大学生物資源科学部 准教授 田代 卓

「バイオディーゼル燃料の製造法と利用上のポイント」

講師 秋田県立大学システム科学技術学部 助教 金澤 伸浩

“燃料”を化学する

「バイオ燃料の現状と今後」

講師 秋田大学工学資源学部 准教授 進藤 隆世志

「輸送用石油燃料の基礎と変遷」

講師 秋田大学工学資源学部附属環境資源学研究センター長

教授 中田 真一

### II. 座談会

司会進行 秋田県立大学地域連携・研究推進センター 教授 日向野 三雄

### 2) 市民講演会

「ヒトの赤血球にはなぜ核がないか？」

講師 秋田大学医学部 教授 澤田 賢一

「菜の花で秋田を元気に」

講師 秋田県立大学生物資源科学部 教授 小林 由喜也

### 2) 子ども向けものづくり教室

(主催 秋田大学)

「いもの作り教室—すず合金、溶かして固めてアクセサリー—」

担当 工学資源学部 麻生 節夫研究室



### (3) 秋田大学出張キャンパスin八峰町

実施日 平成20年11月8日(土)・9日(日) 計2日間

7月に締結された教育文化学部との連携協定に基づく連携協力事業の一環として行われた。白神山地周辺の地質学的な研究成果を交流人口の拡大に結びつけるジオツーリズムや、秋田県の酸性雨問題、能代・山本地域の方言に関する講演を行った。また子ども向け教室として、ブナ材で織り機をつくるクラフト教室、チョコやココア、コーラを使った理科教室などを行った。

#### 1) 講演会

「秋田の山岳部と都市部の酸性降水・霧と大気粒子状物質 (PM) について」

講師 工学資源学部 教授 小川 信明

「平安時代の十和田湖巨大噴火—八郎太郎伝説・ジオツーリズム—」

講師 教育文化学部 教授 林 信太郎

「能代・山本地方の風土と方言」

講師 教育文化学部 准教授 日高 水穂

「クラフトの過去・現在・未来」

講師 教育文化学部 教授 遠藤 敏明

#### 2) 子どもクラフト教室

「小さな織り機をつくってみよう」

講師 教育文化学部 教授 遠藤 敏明

#### 3) 子ども理科教室

「チョコやココアで噴火実験！

—ドクター村村のおいしい火山実験教室—」

講師 教育文化学部 教授 林 信太郎



### (4) 横手市と秋田大学との連携協定締結記念事業 秋田大学出張キャンパスin横手市

実施日 平成21年2月7日(土)

横手市との連携協定締結記念事業として本事業が行われ、調印式、秋田大学と横手市民との懇談会も併せて行われた。

横手市内の中学校においては、国語と数学の大学講義体験を行い、堅苦しくない雰囲気の中、生徒たちもリラックスして講義に挑んだ。

また、「横手」をテーマとした講演会が2つ行われ、一つは江戸時代の城下町横手と平鹿農村の人々の社会生活について、もう一つは永保3年(1083)から寛治元年



(1087)まで続いた後三年合戦について、「横手市史」の資料編や通史編などの近年の研究を踏まえ、新たな見地に基づく事実を紹介した。

1) 大学講義体験

講師 (国語) 教育文化学部 教授 佐藤 稔

講師 (数学) 教育文化学部 教授 杜 威

対象 横手市立鳳中学校1・2年生

2) 講演会

「城下町横手の政治と社会」

講師 教育文化学部 教授 渡辺 英夫

『後三年合戦 (役)』を考える」

講師 教育文化学部 教授 熊田 亮介

3) 秋田大学と市民との懇談会

### 3. 秋田大学地域アカデミー

実施期間 平成20年9月29日(月)～10月3日(金) 5日間

今年度初めて実施した事業で、全国への広報等を(株)ジェイティービーへ業務委託し、秋田県、秋田市、潟上市、仙北市、(社)秋田県観光連盟、(財)秋田観光コンベンション協会から後援を受けた。東京や神奈川、富山などから16名の参加があり、受講生は地域アカデミー実施期間中秋田に滞在し、5日間にわたって全11講義を受講した。

講義は「秋田」をキーワードにテーマを絞り、秋田大学をはじめ秋田県立大学、秋田県農業試験場、地元醸造会社から講師を迎え、玉川温泉での野外観察や油田の見学、酒蔵の見学などの現地見学を組み込み、好評であった。また、最終日には卒業式が行われ、吉村学長から一人ひとりに修了証書が手渡された。

参加した受講生からは、「学生時代を思い出した」「秋田ならではの講義に満足した」「秋田のファンになった」等の感想があった。



9月29日	講義1 秋田美人の文化史 新野 直吉	講義2 「秋田のことば」万華鏡 佐藤 稔	
9月30日	講義3 秋田県と日本の地下資源 丸山 孝彦	講義4 地下からの恵み 玉川温泉と焼山火山活動 水田 敏夫	
10月1日	講義5 野外セミナー―玉川温泉の 強酸性温泉水と北投石の起源― 石山 大三	講義6 秋田に油田はなぜあるか? ―風を吹かせて油田を造る― 佐藤 時幸	
10月2日	講義7 金属資源リサイクルの現状と 基本原理 高崎 康志	講義8 美酒の探究 ―新しい麹菌と酵母を造る― 岩野 君夫	講義9 美酒の設計図―おいしいお酒 はどのようにつくられるか― 小玉 真一郎
10月3日	講義10 秋田のお米を解剖する 眞崎 聡	講義11 カラ傘の代わりになる 巨大植物・秋田蔦 石黒 純一	

#### 4. 講演会等

##### (1) 秋田メディカル・サイエンスカフェ

秋田メディカル・サイエンスカフェは、医学部の生命化学をはじめとする最新の医学研究成果を一般市民に分かりやすく伝える公開講演会で、昨年度から引き続き行われた。

医学部の教員が講師となって研究成果の説明を行い、大学院学生等をファシリテーターとして一般市民の近くに配置し、自由に討議を行った。最新の医学研究の成果を30分程度で市民に向けわかりやすく解説し、講演会後は参加者と医学部教員が、コーヒー等を飲みながら自由に意見交換をした。サイエンスカフェ・マスターは医学部長 本橋 豊 教授である。

##### 1) 「高齢者の生き生き生活と転倒予防」

実施日 平成20年7月2日(水)

担当講師 医学部 教授 島田 洋一

全国第2位の高齢県である秋田県にとって、重大な骨折につながる転倒を予防し高齢者が生き生きと生活することはとても大切である。高齢になると問題になる骨粗鬆症や転倒について、解説と予防法を紹介した。

##### 2) 「アレルギーってなあに?～アレルギーのあれこれ～」

実施日 平成20年9月17日(水)

担当講師 医学部 教授 荏原 順一

年々、アレルギー患者数が増え続けていることは、現代社会で深刻な問題となっている。なぜアレルギーがおこってしまうのか、どう上手く付き合っていけばよいか等について、これまでにわかってきた最新の情報を含めて紹介した。

##### 3) 「新型インフルエンザってなあに?」

実施日 平成20年12月4日(木)

担当講師 医学部 教授 今井 由美子

近い将来、新型インフルエンザが大流行する危険性があると言われている。新型インフルエンザは非常に高い死亡率を示すと考えられており、大流行が起きると、私たちの生活や社会機能に大きな問題が生じる可能性がある。新型インフルエンザとはいったいどのような病気なのか?普通のインフルエンザに比べてなぜそのように高い死亡率を示すのか?予防法はあるのか?どのような治療法があるのか?また、国の新型インフルエンザに対する準備や対策などに関して、最新の情報を含めて分かりやすく説明した。

##### (2) 中国甘肅省・秋田県・秋田大学連携特別講演会—特別展示「平田篤胤・著述板木」—

実施日 平成20年12月20日(土)

担当教員 教育文化学部 教授 石川 三佐男

今年で第3回を数える中国甘肅省・秋田県・秋田大学との連携事業である。今回の目玉は、中国学(甘肅省の青銅器文化)と秋田学(秋田発の平田篤胤論及び生涯学習論)のコラボレーショ

ンであった。初の試みである特別展示では、協力三機関宝蔵の「平田篤胤・著述板木」及び篤胤関係の県指定有形文化財等六十余点が一堂にそろった。これらによってお互いの文化を考え、また篤胤の学問や人となり（墓門碑「古今五千載之一人、宇宙一万里之独歩」など）を知る、良い機会となった。また、以下のとおり講演会を行った。



1) 「甘肅地区青銅器文化」

講師 秋田県埋蔵文化財センター交流員 甘肅省文物考古研究所員 党 栄華

2) 「国学大人・平田篤胤を論ず」

講師 平田篤胤佐藤信淵研究所非常勤研究員 齊藤 壽胤

3) 「秋田における生涯学習論」

講師 秋田大学コーディネーター 白滝 一紀

## 5. その他の活動

### (1) 秋田大学子ども見学デー—ドキドキ☆ワクワク☆大学探検隊—

実施日 平成20年8月19日(火)

- プログラム
1. 学長室見学及び記念撮影
  2. コース別体験(7コース)
  3. 鉱業博物館の見学

親子のふれあいを深め、子どもたちの夏休みを広く社会を知る体験活動の機会とするとともに、大学に対する関心を深めてもらうため、秋田大学施設の見学及びコース別体験を実施した。

今年度で4回目の実施となるが、秋田大学恒例のイベントとして定着しつつあり、年々参加希望者が増加、本年度の参加者は175名であった。

子ども達にとっては、普段入る機会のない大学の研究室や図書館等で様々な体験をすることが新しい興味の発見となっているようで、なかには「将来はアンモナイトを研究したい」、「秋田大学で勉強がしたい」と口にする子どももいた。また、一緒に参加した保護者にとっても、子どもたちが熱心に説明を聞いたり元気に実験に参加したりする様子を間近で見たりすることができる良い機会となった。



## (2) 小中学生の本学訪問への対応

秋田大学では総合的な学習の時間や職場訪問等の一環としての小・中学生の大学訪問や、PTA研修等を随時受け入れている。

本年度は下記3つの小中学校からの児童・生徒の大学訪問を受け入れ、質問等に答えながら事務職員が学内を案内し子供たちのニーズに対応した。また、研究室を訪問し、教員や学生へのインタビュー等も行った。



受入小・中学校名／学年

- 1) 秋田市立明德小学校 2年生
- 2) 八峰町立八森中学校 2年生
- 3) 秋田市立城南中学校 2年生

## (3) 理工系教育シンポジウム

「ものづくり創造工学センター」はJAXA宇宙教育センターと共同で、宇宙を教材としつつ理工系教育と深く関わるシンポジウム、講演会、映像提供などを行っており、平成20年度も文部科学省政策課題対応経費事業の一環として、下記シンポジウムを開催した。

- 1) 第1回理工系教育シンポジウム—子どもの理科離れと新しい理工系人材育成を考える—  
実施日 平成20年5月17日(土)  
会場 株式会社内田洋行 新川オフィス ユビキタス協創広場 CANVAS (カンバス)



昨今問題になっている子どもたちの「理科離れ」について問題を分析し、新たな方策を探ることを目的に行われた。

JAXA宇宙教育センター中村参事による基調講演「理工学教育の現場と今後の課題」に続き、5人の講演者が、中学・高校・大学それぞれの教育現場の理工学教育の現状や産業界での人材育成といった様々な立場から講演

し、中学・高校教育の現状、および産業界が要請する人材に関して分析を行った。これらを踏まえた上で、大学での教育改革の一手法として、ものづくり実践教育やプロジェクト遂行型教育による現代的理工学教育を紹介し、「理科離れ」の諸問題に関する新たな方策について議論を行った。

## 2) 第2回理工系教育シンポジウム―「缶サット甲子園」高校生達の挑戦！―

実施日 平成20年12月7日(日)

会場 東京大学 本郷キャンパス 浅野地区 武田先端知ビル5階ホール

第1回理工系教育シンポジウムで得られた知見に基づいて8月24日(日)～26日(火)に能代市で開催された「缶サット甲子園」に参加した高校生たちによる発表が行われた。「缶サット甲子園」を通じて本格的なものづくり実践教育やプロジェクト遂行型教育を実施し、昨今問題となっている子どもたちの「理科離れ」の諸問題に対する新たな方策の効果を確認した。発表は高校生ながら堂々としており、プレゼンテーション能力の高さを感じられた。

## (4) 第43回秋田県小・中・高等学校児童生徒理科研究発表大会(後援)

実施日 平成20年11月15日(日)

「理科離れ」が指摘される昨今、新学習指導要領で自然科学分野の充実や表現力の育成が重要視されているが、今大会では、小・中・高等学校の児童・生徒が100題を超える発表を行い、600人を超える参加者があった。研究交流を通して、児童・生徒の工夫と努力を認め、「科学する心」、「表現する力」を育てる貴重な機会となった。なお、優秀な発表には表彰状が贈られた。

## (5) シンポジウム「謎の遺跡『払田柵』から探る秋田の可能性」

実施日 平成20年12月13日(土)

平成19年度に秋田大学教育文化学部で発足した『「秋田学」の構築に関する研究会』が主体となり行われた。昭和6(1931)年に国指定史跡となった大仙市の払田柵跡は、今なお多くの謎に包まれている。まず秋田県教育庁堀田柵跡調査事務所主任学芸主事である高橋 学氏が「払田柵はなぜ、この地に造られたのか」と題する基調講演でその謎にせまり、続いて行われたパネルディスカッション「古代ロマンの里から探る秋田の可能性」では、秋田県総務企画部総合政策課・小野一彦氏をパネリストに迎え、教育文化学部の林信太郎(火山学)・和泉浩(社会学)・篠原秀一(地誌学)各教員が、それぞれの専門分野から、払田柵が造られた地の地域的特質や今後の研究、活用のあり方などについて見解を述べた。当日は学内外から約100名の参加者があり活発な議論が展開された。

## (6) 研究室体験学習や実験教室など

### 1) 秋田大学天文台イベント

実施期間 平成20年4月～平成21年3月 計43回

担当講師	教育文化学部	技術専門職員	毛利 春治
	教授		林 信太郎
	准教授		上田 晴彦
	講師		本谷 研
	技術専門員		成田 堅悦



一般市民や小中高校生を対象に、「市民のための夜間観察会」を17回（参加者270名）、「天文講演会」を7回（同60名）、「天文講習会（ボランティア講習会）」を9回（同20名）、「天体観測講座」を1回（同69名）実施した。県内学校の依頼により、天文台見学会2校（同80名）、夜間天体観察会1校（同34名）、出前天文講座1回（同24名）を実施した。膨大な宇宙を立体映像で体験できる映像コンテンツ「4次元宇宙シアター」を導入したことにより、曇天・雨天の実際に天体を観察できない際にも、疑似的に天体観測体験ができ、時間・空間スケールが認識大規模な宇宙の構造について直感的に理解できた。本事業を通じ、子どもたちは星や星座の動きについて問題意識を持って観察体験を積むことができたと思われる。

## 2) 子ども農業体験教室とそれを生かした食育活動の展開

実施期間 平成20年5月～平成21年1月

第2・4土曜日 夏休み、冬休みは不定期 計20回

担当講師 教育文化学部 総括技術長 逸見 洋子  
技術職員 山下 清次

大学生が学生実験実習で栽培している作物を活用しながら、小学生が自ら種子を選定し、栽培管理、観察、調理、加工までの体験を行った。自然、土に触れる機会が減少しつつある昨今、農作業やものづくり、生活体験を通して、土や虫、様々な作物と触れ合い、普段口にしている作物の話の聞き、栽培して食べるという得難い経験ができ、嫌いな野菜も食べられるようになった等の成果が得られた。また、子どもと保護者が共に体験教室に参加することにより、親子間のコミュニケーションが図られた。

## 3) 金属とセラミックスを用いた子供もの作り教室

実施日 平成20年11月8日（土）、9日（日）

担当講師 工学資源学部 教授 泰松 斉  
教授 麻生 節夫  
客員教授 金児 紘征  
教授 大口 健一  
助教 仁野 章弘  
技術専門職員 小松 芳成  
技術専門職員 菅原 和久

小学校高学年生を対象に、金属とセラミックスを用いて比較的身近な工業製品を作製することによって、ものづくりのおもしろさや科学の楽しさを子どもたちに実践的に伝えることを目的に行われた。実験を通して作製したフェライト磁石や蛍光塗料、スズ合金製のメダル等は、実際にできたものを持ち帰ることもできるので、ものづくりの楽しさが家族や友人へも波及する効果があったものと思われる。

#### 4) 子ども環境科学教室「おもしろサイエンス」

実施日 平成20年11月9日(日)

担当講師 工学資源学部附属環境資源学研究センター長 教授 中田 真一

工学資源学部 准教授 加藤 純雄

助教 小笠原 正剛

技術職員 山谷 孝裕

中田研究室学生9名

環境問題に対する意識向上と化学への興味を引き出すことを目的に、秋田県立保呂羽山少年自然の家を会場に、秋田県内の小学校高学年生・中学生を対象として実施された。環境に関するレクチャー以外にも、実際に野外で水質や土壌の環境測定を行ったり、燃料電池を作製し実験したりするなど、地域の子どもへの環境リテラシーの涵養と理工学離れを防ぐための実践型教育を提供した。



#### 5) 白神山地周辺におけるジオツーリズム振興とジオパーク設置にむけての設置調査

事業参加者 工学資源学部 教授 水田 敏夫

教授 石山 大三

准教授 大場 司

教育文化学部 教授 林 信太郎

白神周辺地域には、世界遺産白神山地に代表されるエコツーリズムの良好な素材があるにも関わらず、現状ではほとんど観光資源としては活用されていない。そこで、工学資源学部を中心とした「白神山地周辺におけるジオツーリズム振興とジオパーク設置にむけての設置調査」プロジェクトでは、白神周辺地域の日本ジオパーク設定に向け、基礎調査と活動を始めた。ジオパーク(ユネスコ)とは、科学的に見て特別に重要で美しい地質遺産のある自然公園であり、その目的は、地質遺産を保全し、ジオツーリズム観光の対象とすることによって地域社会の活性化を目指すことである。

本プロジェクトでは、白神周辺地域の地質遺産の基礎調査を行うとともに、現地NPO法人与自然ジオパーク設置に向けて随時協議を行い、また、自然観察ガイドを対象とした研修会を行った。研修会では、八峰町の海岸で、教育文化学部 林 信太郎教授が海岸線の地質について説明をし、参加者約30名は、海底火山の噴火の証拠となる溶岩が固まってできた岩や、地底からマグマがあふれ出して流れた跡などを見て回るなど、本プロジェクトにおける基礎調査結果による地質情報や写真資料を共有した。

## (7) 平成20年度サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト

「分子生物学（サマー・ウィンター）スクール」

実施日 サマースクール 平成20年 8月 1日（金）・ 8月 2日（日）

ウィンタースクール 平成20年12月26日（金）・12月27日（土）

担当 工学資源学部 教授 伊藤 英晃

科学技術振興機構サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト事業に採択された本講座は、県内の高等学校と連携し、分子レベルで生命現象を解析する分子生物学の内容を自分自身が体験することにより、生命科学分野に興味を持ち、次世代の研究者・技術者を目指してもらうことを目的に行われた。

高校生が生命化学の分野、特にDNAについて、単に知識としての興味ではなく、実験や体験を通じて興味を持つ良い機会となった。

## (8) JICAを学ぼう！秋田大学から発信！人と人をつなぐ国際協力

実施日 平成21年1月23日（金）



国際協力機構（JICA）のボランティア事業について、本学教職員や学生の理解を深めることを目的に行われた。イベントは二部構成で、前半はJICA秋田デスクの国際協力推進員 樋口 和彦氏からJICA協力隊の試験、派遣前訓練や派遣国での生活、帰国後の進路についての概要説明が、後半は青年海外協力隊OB・OGを迎えて座談会が行われ、より具体的な体験談が語られた。座談会では、OB・OGからより具体的な体験談が語られ、会場からは「派遣前と派遣後で自分にとってどのような変化があった

か」「日本の協力は本当に現地で役立っているのか」などの質問が寄せられるなどし、参加者にとってJICAボランティア事業について理解や意識を高める良い機会となった。

社会貢献事業実施状況一覧

	事業名	開催時期	対象者	参加者数	担当の学部
公開講座	「近世の日本音楽—粋と人情の娯楽世界—」(全6回)	20.6.7(土) ~ 7.19(土) ※6.28(土)をのぞく	一般市民	20	教育文化学部
	「電気電子工学の世界」(全5回)	20.6.20(金) ~ 7.16(水) ※最終回のみ水曜日に実施する	一般市民	10	工学資源学部
	「健康と生活を考える—秋田でよりよく生きるために—」(全4回)	20.9.27(土) ~ 10.18(土)	一般市民	13	医学部保健学科
	「東アジアの文化と社会」(全10回)	20.10.7(火) ~ 12.9(火)	一般市民	19	教育文化学部
	「総合自殺予防学インテンシブコース」(全5回)	20.10.10(金) ~ 11.14(金) ※10.31(金)をのぞく	保健師 行政担当者 サポーター	29	医学部医学科
	「『文学』は何を食べてきたのか？ —英・米・露文学に見る食生活と文化—」(全7回)	20.11.5(水) ~ 12.17(水)	一般市民	12	教育文化学部
	「長寿社会における「老い」と「病」を考える —明るい人生を過ごすために—」(全3回)	20.11.20(木) ~ 12.4(木)	一般市民	5	教育文化学部
サテライト事業	東京サテライト教養セミナー「秋田学」を学ぶ(2回)	20.9.19(金)・9.26(金)	一般市民	100	
	第2回秋田大学・秋田県立大学連携事業 in 大崎市	20.10.31(金) ~ 11.1(土)	一般市民, 小・中学生	157	
	秋田大学出張キャンパス in 八峰町	20.11.8(土) ~ 11.9(日)	一般市民, 小・中学生	154	
	秋田大学出張キャンパスin横手市	21.2.7(土)	一般市民, 中学生	426	
秋田大学地域アカデミー	秋田大学地域アカデミー	20.9.29(月) ~ 10.3(金)	50歳以上	16	
講演会	第4回秋田メディカル・サイエンスカフェ 「高齢者の生き生き生活と転倒予防」	20.7.2(水)	一般市民	50	医学部
	第5回秋田メディカル・サイエンスカフェ 「アレルギーってなあに？～アレルギーのあれこれ～」	20.9.17(水)	一般市民	60	医学部
	第6回秋田メディカル・サイエンスカフェ 「新型インフルエンザってなあに？」	20.12.4(木)	一般市民	60	医学部
	中国甘肅省・秋田県・秋田大学連携特別講演会 —特別展示「平田篤胤・著述板木」—	20.12.20(土)	一般市民	170	教育文化学部
その他	秋田大学天文台イベント	20.4.19(土) ~ 21.3.28(土)	一般市民, 小・中・高校生	557	教育文化学部
	理工系教育シンポジウム(東京)	20.5.17(土)・20.12.7(日)		70	工学資源学部 他
	子ども農業体験教室とそれを生かした食育活動の展開	5月から継続的に実施 第2・第4土曜日	小学生	15	教育文化学部
	秋田大学子ども見学デー	20.8.19(火)	小・中学生	175	
	金属とセラミックスを用いた子供もの作り教室	20.11.8(土) ~ 20.11.9(日)	小学生	62	工学資源学部
	子ども環境科学教室「おもしろサイエンス」	20.11.9(日)	小学生	50	工学資源学部
	平成20年度サイエンスパートナーシッププロジェクト 分子生物学(サマー・ウィンター)スクール	20.8.1(金) ~ 20.8.2(土) 20.12.26(金) ~ 20.12.27(土)	高校生	29	工学資源学部
	第43回秋田県小・中・高等学校児童生徒理科研究発表大会(後援)	20.11.15(日)			
	シンポジウム 「謎の遺跡『弘田柵』から探る秋田の可能性」	20.12.13(土)	一般市民	90	教育文化学部
	JICAを学ぼう！秋田大学から発信！ 人と人をつなぐ国際協力	21.1.23(金)	本学教職員・学生	23	
	白神山周辺におけるジオツアーリズム振興とジオパーク 設置にむけての設置調査 「八峰町における自然観察ガイド研修」	21.3.22(日)	自然観察ガイド (研修会)	30	教育文化学部 工学資源学部
	大学訪問受け入れ	3件		19	

## 【社会貢献企画会議委員】

委員職名	所属	氏名	任期
機構長	理事（教育・社会貢献担当）	吉岡尚文	20. 4. 1 ~ 在任中
副機構長	教育文化学部 教授	長澤光雄	20. 4. 1 ~ 22. 3. 31
機構長指名教員 （部門員から）	医学部 教授（医学科）	村田勝敬	20. 4. 1 ~ 22. 3. 31
	医学部 教授（保健学科）	石井良和	20. 4. 1 ~ 22. 3. 31
	工学資源学部 教授	松富英夫	20. 4. 1 ~ 22. 3. 31
機構長が必要と認めた者	産学連携推進機構 専任教員	森川茂弘	20. 4. 1 ~ 22. 3. 31
	教育文化学部 教授	林信太郎	20. 4. 1 ~ 22. 3. 31
社会貢献・国際交流課長		永井美喜子	19. 4. 1 ~ 在任中

## 【社会貢献推進機構 事務職員】

職名	氏名
課長	永井美喜子
係員	荒川陽子
係員	武内亜紀子

平成20年度社会貢献事業ポスター（一部）

## 平成二十年秋田大学公開講座

# 近世の日本音楽

### ―粹と人情の娯楽世界―

講師 秋田大学教育文化学部 准教授 武内 恵美子



【絵画の中】(国書) 画「舟橋和郎」/武内 恵美子

一昨年から行っている日本音楽史シリーズの3回目です。一昨年は古代、昨年は中世の音楽文化と、時代を辿ってを繰り返してまいりました。今回は近世の音楽文化をテーマとします。忠実、すなわち工部制の文化は音楽が主体となって発展します。そのなかで音楽がどのように展開したのかを、昔のものだけでなく、歴史的・社会的視野も取り入れながら紹介していきます。

一回見逃してはなりません。前回まで受講されていない方も問題ありません。気軽に参加してください。

会場 秋田大学教育文化学部 3号館2階254講義室

日時 平成二十年六月七日(土) 午後二時～四時  
七月十九日(土) 午後二時～四時  
計六回(六月十八日と二十一日は中止)

講座日程	講師
第1回 6月7日(土) 14:00~16:10(開講式5分含む)	紀康史 一風流の音楽史概論
第2回 6月14日(土) 14:00~16:00	紀康史 一節・音楽地・人情―
第3回 6月21日(土) 14:00~16:00	武内 恵美子 一江戸の音楽―
第4回 7月5日(土) 14:00~16:00	上野理 一江戸の音楽―
第5回 7月12日(土) 14:00~16:00	上野理 一江戸の音楽―
第6回 7月19日(土) 14:00~16:10(開講式5分含む)	中込 一音楽の歴史と未来―

主催 秋田大学  
 募集人員 40人(一般市民)  
 受講料 7,200円(10時間分)  
 申込期間 6月6日(金)まで  
 〒010-8502 秋田大学社会貢献・国際交流課  
 TEL: 018-889-2270 FAX: 018-889-3012  
 E-mail: syakoku@jim.u.ac.jp  
 秋田大学HP: http://www.akita-u.ac.jp/

## 平成20年度秋田大学公開講座

# 電気電子工学の世界

私たちは、毎日高度なエレクトロニクス製品や通信サービスなどの恩恵を受けながら生活しています。本講座では、そのようなエレクトロニクス技術のなから、いくつかの身近なものに焦点をあて、その原理を直感的に理解できるように「解説」します。そして、技術発展の歴史を通して、高度電子工学の進化のスピードを感じ、未来の世界を想像してみましょう。



2008年 6月20日(金)~7月16日(水) ※毎週金曜日(最終日のみ水曜日)

秋田拠点センター アルヴェ 4階 洋室C

主催 秋田大学  
 募集人員 30人(一般市民)  
 受講料 6,200円(7時間30分)  
 申込期間 4月25日(金)~6月19日(木)  
 (ただし、土・日・祝日を除きます。)  
 申込員になり次第締め切らせていただきます。  
 申込は、社会貢献・国際交流課窓口の他、電話・FAX・Eメールでも承ります。

第1回 6月20日(金)	第2回 6月27日(金)	第3回 7月4日(金)	第4回 7月11日(金)	第5回 7月16日(水)
18:30~18:40 開講式 18:40~20:10 テレビの過去・現在・未来 ―色鮮やかなフラットパネルディスプレイはどれか― 工学教育学部電気電子工学科 准教授 山口 雅典子	18:30~20:00 インターネットの過去・現在・未来 ―通信の未来がなぜ世界を繋いできたのか― 工学教育学部電気電子工学科 教授 小原 仁	18:30~20:00 システム工学とアート ―工学と人文科学の融合を想像して― 工学教育学部電気電子工学科 講師 三浦 武	18:30~20:00 暮らしの中のあかり ―ろうそくから発光ダイオードまで― 工学教育学部電気電子工学科 教授 鈴木 雅史	18:30~20:00 超電導工学の基礎 ―聞こえない音の響― 工学教育学部電気電子工学科 教授 多野 和彦 20:00~20:10 閉講式

申込先(総合案内) 秋田大学社会貢献・国際交流課 〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号  
 TEL: 018-889-2270 FAX: 018-889-3012 E-mail: syakoku@jim.u.ac.jp  
 秋田大学ホームページ http://www.akita-u.ac.jp/

## 平成20年度 秋田大学公開講座

# 健康と生活を考える

### ―秋田でよりよく生きるために―

〔開設期間〕 9月27日(土)~10月18日(土)  
 〔会場〕 秋田大学医学部保健学科 B棟第1講義室・実習室

秋田県は、自然が豊かで固有の文化や風土を持っています。その一方で、抱える課題もあって、健康と生活では少子高齢化の進行、高い自殺率、塩分摂取量の多さ、保健医療面ではがん・脳卒中・心臓病の死亡率が高いなどの地域特性が挙げられます。

そこで、本講座では、秋田における健康と生活をみつめ直し、秋田でよりよく生きるための方法について、保健医療の専門家が講義(一般実習を含む)を通じてわかりやすくお伝えしていきます。

第1回 9月27日(土)	第2回 10月4日(土)	第3回 10月11日(土)	第4回 10月18日(土)
13:30~13:40 開講式 13:40~14:40 「医療・福祉・教育の地域連携推進を―秋田県での小児医療を通して―」 医学部保健学科 教授 工藤 敏雄	13:30~14:45 「食べることの障害―摂食障害とそれ対応―」 医学部保健学科 助教 高橋 真一	13:30~14:45 「足から健康を考える―はじめる一歩―」 医学部保健学科 助教 阿部 陽	13:30~14:45 「秋田県における夏季期の現状と課題―暑熱対応講座がテーマとして―」 医学部保健学科 助教 成田 好美
15:00~15:30 「秋田の気候に負けない暮らし―暮らしから健康―」 医学部保健学科 助教 若狭 正彦	15:05~16:30 「自分史を生活に活かす―次世代へ伝えると創る―」 医学部保健学科 助教 石井 俊智子	15:05~16:30 「つながりによる心の健康の維持」 医学部保健学科 講師 坪山 晶子	16:30~16:30 閉講式

申込期間: 9月26日(金)まで (ただし、土・日・祝日を除きます。)  
 申込員になり次第締め切ります。  
 申込は、社会貢献・国際交流課窓口の他、電話・FAX・Eメールでも承ります。

主催 秋田大学  
 募集人員 30人(一般市民)  
 受講料: 6,200円(10時間分)  
 申込期間: 9月27日(土)~10月18日(土)  
 申込曜日 計4日間

秋田大学社会貢献・国際交流課 〒010-8502秋田市手形学園町1番1号  
 TEL: 018-889-2270 FAX: 018-889-3012 E-mail: syakoku@jim.u.ac.jp  
 秋田大学HP: http://www.akita-u.ac.jp/

## 平成20年度秋田大学公開講座

# 東アジアの文化と社会

東アジアの文化と社会を中国古典文学研究、中国思想史研究、中国歴史研究、書学、朝鮮研究という各分野の視点から、最新の研究成果をふまえて具体的なテーマを設定し、それを切り口としてわかりやすくその文化の特質と社会の実態にアプローチします。

日程 平成20年10月7日(火)~12月9日(火) 毎週火曜日・全10回  
 時間 18:30~20:00(1時間30分) ※初日・最終日は20:10まで  
 会場 カレッジプラザ小講義室2(明徳館ビル2階)

◇講座日程

日程	講義題	講師
第1回 10/7	日本と中国における書芸術①	教育文化学部 教授 長沼 雅彦
第2回 10/14	日本と中国における書芸術②	教育文化学部 准教授 高村 竜平
第3回 10/21	韓国の家族と墓に見る伝統と近代①	教育文化学部 講師 内田 昌功
第4回 10/28	韓国の家族と墓に見る伝統と近代②	教育文化学部 教授 吉永 慎二郎
第5回 11/4	シルクロードと東アジアの文化①	教育文化学部 教授 石川 三佐男
第6回 11/11	シルクロードと東アジアの文化②	
第7回 11/18	地下型世界観と天上型世界観―中国文明の二元的構造について―①	
第8回 11/25	地下型世界観と天上型世界観―中国文明の二元的構造について―②	
第9回 12/2	秋田文化の脈を辿る―漢詩文書画編―①	
第10回 12/9	秋田文化の脈を辿る―漢詩文書画編―②	

主催: 秋田大学  
 共催: 大学コンソーシアムあきた  
 募集人員: 30人(一般市民)  
 受講料: 8,200円(15時間)  
 申込期間: 10月6日(月)まで  
 (ただし、土・日・祝日及び休日を除きます。)  
 ※定員になり次第締め切りとします。  
 ※申し込みは、社会貢献・国際交流課窓口の他、電話・FAX・Eメールでも受付いたします。

申込・問い合わせ先  
 秋田大学社会貢献・国際交流課 〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号  
 TEL: 018-889-2270 FAX: 018-889-3012  
 E-mail: syakoku@jim.u.ac.jp  
 秋田大学ホームページ http://www.akita-u.ac.jp/

# 平成20年度秋田大学公開講座 総合自殺予防学インテンシブコース

秋田大学では今年度、大学院に「自殺予防学系クラスター」を設置し、自殺予防対策の専門家養成に取り組んでいます。  
本講座は現場で自殺予防対策に関わっている実務の専門家を対象に、自殺総合対策の現状と今後の展望を理解し、現場での対策推進に役立つことを目的として開催いたします。

期間：平成20年10月10日(金)～11月14日(金)  
10月31日(金)を除く 毎週金曜日  
計5回  
時間：15:00～17:00  
会場：カレッジプラザ(明徳館ビル2階)  
受講料(資料代)：6,200円



募集人数  
30人  
(講師・行政担当者・サポーター)

日程	講義題	講師
第1回 10/10	自殺予防の基礎知識・精神科医の立場から	秋田県立大 教授 高橋 祥哉
第2回 10/17	多重課題問題とは何か	弁護士 萩原 正徳
第3回 10/24	秋田市の市町村の自殺対策	秋田大学 准教授 金子 健博
第4回 11/7	うつ病と自殺	秋田大学 准教授 大野 裕
第5回 11/14	高齢者のメンタルヘルス対策と自殺	秋田大学 准教授 川上 善人

申込期間 9月12日(金)～10月8日(木)  
申込・問い合わせ先  
秋田大学社会貢献・国際交流課 〒010-8502 秋田市手形学道南1番1号  
電話：018-889-2270 FAX：018-889-3012 E-mail: syakoku@jimu.akita-u.ac.jp  
ホームページ http://www.akita-u.ac.jp/

主催/秋田大学 共催/大学コンソーシアムあきた 会場/カレッジプラザ(秋田市中道2-1-54)

「あきた教育の日」協賛イベント

# 平成20年度秋田大学公開講座 「文学」は何を食べてきたのか？ —英・米・露文学に見る食生活と文化—

欧米文学というと小難しいものと思われるかもしれませんが、そこに描かれた食生活をのぞいて見ると、また別の世界が広がってゆきます。シェイクスピアやドストエフスキーは、いったい何を食べ、何を考えたのでしょうか。おいしくするための文学的グルメガイドで、今一度味わい直してみよう。

日時 11月5日(水)～12月17日(水) 毎週水曜日・全7回 18:30開始  
会場 カレッジプラザ大講義室(明徳館ビル2階)

## ◇講座日程

日程	講義題	講師
第1回 11/5	イギリス文学の食卓① —「植物の神話」における動物—	教育文化学部 准教授 大西 洋一
第2回 11/12	イギリス文学の食卓② —牛乳と自由 ジョージイムと産業革命—	
第3回 11/19	ロシア文学の食卓① —ロシア料理と東西文明の融合—	教育文化学部 准教授 長谷川 章
第4回 11/26	ロシア文学の食卓② —料理と文化の対峙—	
第5回 12/3	アメリカ文学の食卓① —悪魔の誘惑を越えて—	教育文化学部 准教授 村上 東
第6回 12/10	アメリカ文学の食卓② —世界の国を食卓へ—	
第7回 12/17	(シムベジウム) 文学は何を食べてきたのか？	上記の講師全員

主催：秋田大学 申込・問い合わせ先  
共催：大学コンソーシアムあきた 秋田大学社会貢献・国際交流課  
募集人員：30人(一般市民) 〒010-8502  
受講料：6,200円 秋田市手形学道南1番1号  
申込期間：11月4日(火)まで TEL：018-889-2270  
FAX：018-889-3012  
E-mail: syakoku@jimu.akita-u.ac.jp  
ホームページ http://www.akita-u.ac.jp/



長寿医療制度(後期高齢者医療制度)、年金記録、メタボなど、老後の生活や健康への関心は高まる一方で、新聞やテレビからも、様々な情報やデータ(数値)が入ってきます。  
今回の講座では、次の二つの視点から「老い」と「病」について考えていきます。

- 「老い」の歴史的アプローチ  
古代、高齢者は国家にとって無くてはならない存在でした。「老」が「キャリア」を意味することもありました。年金制度もない時代、高齢者にはどのような生き方があったのでしょうか？地域社会では高齢者をどのように受け入れていたのでしょうか？
- 「病」と「健康」の社会的アプローチ  
「病気」にならず、いつまでも「健康」でいたいものですが、なかなかそうも言ってられません。メタボも喫煙も「病気」になりました。でも、太った人や喫煙、少し前は違ったイメージではありませんでしたか？獲せていると不健康に見られたり、テレビや映画ではお金持ちは太っていたり、喫煙は大人のイメージだったり。「病」や「健康」とは何なのでしょう？

講座日程

11月20日(木)	開講式
18:00～18:10	
18:10～19:40	「お荷物」ではなかった「老人たち」 教育文化学部 教授 渡部 育子
11月27日(木)	
18:00～20:00	「病・健康と社会」 教育文化学部 准教授 和泉 浩
12月4日(木)	
18:00～19:30	「社会的弱者と地域の支え」 教育文化学部 教授 渡部 育子
19:30～19:40	閉講式

11月20日(木)～12月4日(木)  
18:00開始

秋田大学「フューチャ・ビズ・イニシアチブ」2階大セミナー室

■主催 秋田大学  
■募集人員 30人(一般市民)  
■受講料 6,200円(5時間分)  
■申込期間 11月19日(水)まで  
(ただし、土・日曜日及び休日を除きます。)  
▽申込員になり次第締切いたします。  
▽申込は、社会貢献・国際交流課窓口の他、  
電話・FAX・Eメールでも受付いたします。

申込先(問合せ先) 秋田大学社会貢献・国際交流課 〒010-8502 秋田市手形学道南1番1号  
■電話：018-889-2270 ■FAX：018-889-3012 ■Eメール：syakoku@jimu.akita-u.ac.jp  
■秋田大学ホームページ http://www.akita-u.ac.jp/



# 平成20年度 秋田大学東京サテライト教養セミナー 「秋田学」を学ぶ

日時/平成20年9月19日(金)・26日(金) 13:30～16:00  
会場/キャンパス・イノベーションセンター 2階 多目的室2

入場無料

9月19日(金)  
白神山地のブナ林  
秋田大学教育文化学部教授 井上 正 敏  
八郎太郎伝説と巨大噴火  
—秋田県におけるジオパーク・リゾーツの可能性—  
秋田大学教育文化学部教授 林 信太郎

9月26日(金)  
秋田県北地方の芸術の伝承と変容  
秋田大学教育文化学部教授 桂 博 章  
秋田の「泉民性」言説の創出と方言  
秋田大学教育文化学部准教授 日高 水 穂

問い合わせ先  
秋田大学社会貢献・国際交流課  
〒010-8502 秋田市手形学道南1番1号  
TEL: 018-889-2270 FAX: 018-889-3012  
E-mail: syakoku@jimu.akita-u.ac.jp  
秋田大学ホームページ  
http://www.akita-u.ac.jp/

秋田大学東京サテライトオフィス  
〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6  
キャンパス・イノベーションセンター6階 604号  
TEL/FAX: 03-5440-9104  
E-mail: r604001@sic.zsm.go.jp

主催 秋田大学  
後援 秋田県、首都圏秋田県人会連合会



第2回運携事業  
「あきた教育の日」協賛イベント

# 秋田大学・秋田県立大学 in 大仙市

【主催】秋田大学・秋田県立大学 【後援】大仙市・秋田新聞社

期間 平成20年10月31日(金)～11月1日(土) **受講無料 申込必要**

会場 大曲エンバイヤホテル (大仙市大曲白立町8-17)

## 10月31日(金) 技術フォーラム・交流会

バイオ燃料は世界を救う？— 秋田からの発信 —  
技術フォーラム (15:00～17:00)

I. 総論提供

「葉の花」を科学する  
「葉の花栽培の豆知識」  
秋田県立大学生命農産科学部 准教授 田代 暁  
「バイオディーゼルの製造法と利用上のポイント」  
秋田県立大学システム科学技術学部 助教 金澤 伸浩

「燃料」を化学する  
「バイオ燃料の現状と今後」  
秋田大学工学資源学部 准教授 遠藤隆世志  
「輸送用石油燃料の基礎と変遷」  
秋田大学工学資源学部環境資源工学研究センター長 教授 中田 真一

II. 座談会  
司会進行 秋田県立大学地域連携・研究推進センター 教授 日向野三雄

交流会 (17:30～18:30)

## 11月1日(土) 市民講演会

市民講演会 (13:30～16:00)

「ヒトの赤血球にはなぜ核がないか？」  
秋田県立大学 教授 澤田 賢一  
「葉の花で秋田を元気に」  
秋田県立大学生命農産科学部 教授 小林由重也

問い合わせ先  
【秋田大学】社会貢献・国際交流課 〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号 TEL:010-889-3312  
【秋田県立大学】企画チーム TEL:010-0125 秋田県立大学学舎2階南館414-302 TEL:010-021-1900

秋田大学子どもものづくり教室 「あきた教育の日」協賛イベント

# いもの作り教室

—すず合金、溶かして固めてアクセザリ—



好きな形に作った「鈍型(いがた)」に、溶けた合金を流して、自分だけのアクセザリを作ります。  
合金は溶けることや、種類によって溶ける温度が違うことなども学びます。

日時 平成20年11月1日(土) 13:00～16:00  
会場 花火庵(のびのびらんど花火通り)  
対象 小・中学生(30名) ※申し込みが必要です  
講師 秋田大学工学資源学部 麻生 節夫 教授研究室

会場案内図

- 参加無料。
- 先着順の受付です。(定員になり次第締め切ります。)

参加申し込み・問い合わせ先  
秋田大学社会貢献・国際交流課  
〒010-8502 秋田市手形学園町1-1  
TEL:010-889-2270 FAX:010-889-3012  
E-mail: syakoku@jimu.akita-u.ac.jp

「あきた教育の日」協賛イベント

# 秋田大学出張キャンパス in 八峰町

秋田大学の教育・研究の活動内容を八峰町の皆さんにご紹介します。秋田の自然や方言など、身近なテーマでの講演会と子ども向けの教室を、同時に開催します。

11月8日(土) 講演 (13:30～16:30)  
秋田の山岳部と都市部の酸性降水・霧と大気粒子状物質(PM)について  
工学資源学部教授 小川 信明

11月9日(日) 講演 (13:30～16:30)  
鶴代・山本地方の風土と方言  
教育文化学部准教授 日高 水穂

平安時代の十和田湖巨大噴火 - 八郎太郎伝説・ジオツアーリズム -  
教育文化学部教授 林 信太郎

子どもクラフト教室 (13:30～16:30)  
小さな織機をつくってみよう  
教育文化学部教授 遠藤 敏明  
対象 小学5年生～中学3年生  
定員 15人  
※事前申込が必要です。

クラブの過去・現在・未来  
教育文化学部教授 遠藤 敏明

子ども理科教室 (13:30～16:30)  
チョコやココアで噴火実験！！  
—ドクターホタホタのおいしい火山実験教室—  
教育文化学部教授 林 信太郎  
対象 小学4年生～中学3年生  
定員 30人  
※事前申込が必要です。

日時 平成20年11月8日(土)・9日(日)  
会場 あきた白神体験センター (八峰町八森字御所の台53-1)  
受講料 無料

主催：秋田大学 共催：八峰町、八峰町教育委員会

秋田大学 〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号  
社会貢献・国際交流課 TEL 010-889-2270 FAX 010-889-3012 E-mail syakoku@jimu.akita-u.ac.jp

「あきた教育の日」協賛イベント

# 秋田大学出張キャンパス in 八峰町

会場：あきた白神体験センター

11月8日(土) 13:30～16:30 子どもクラフト教室  
小さな織機をつくってみよう

秋田の木村(原産材)などで小さな手づくりの織り機(ロビンガル)をつくり、巻機(スラップ)から織り布、縫製まで、いろいろ織ひもを織ります。ロビンガルは、スウェーデンの子どもたちにも織りましたが、そのくみは、古く奥地で、使われてきたものです。木工でつくった手づくりの織り機で、どのように織物ができているかを学ぶことができます。そして生活の中で、自分の作った物が役立つことも、様々な色から織り出されるひもは、作っていると、使っていると、とても楽しいと思えます。

本型や織機の手づくりも、色紙もあそびましょう。  
ぜひ皆さんも参加しましょう！

講師：教育文化学部教授 遠藤 敏明  
対象：小学5年生～中学3年生 定員：15人

11月9日(日) 13:30～16:30 子ども理科教室  
チョコやココアで噴火実験！！  
—ドクターホタホタのおいしい火山実験教室—

小中学生のみなさん、火山の山火ってどんなものかピンと来ませんよね？そこで、ほんものの火山学者のドクターホタホタこと林信太郎先生が豪華したのがキッチン火山実験です。台所にあるたへものチョコやココアやコーラーを使って火山の山火のシミュレーションを行います。世界中の火山のお話をします。ぜひ、来てね！

講師：教育文化学部教授 林 信太郎  
対象：小学4年生～中学3年生  
定員：30人

申し込み・問い合わせ先

秋田大学 社会貢献・国際交流課  
〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号  
TEL 010-889-2270 FAX 010-889-3012  
E-mail syakoku@jimu.akita-u.ac.jp

- 参加無料
- 先着順の受付です(定員になり次第締め切ります。)



横手市と秋田大学との連携協定締結記念事業

# 秋田大学出張キャンパス in 横手市

平成21年2月7日(土)

13:00～ 講演会  
 横手市と秋田大学の政治と社会  
 秋田大学教育文化学部教授 藤田 英夫  
 「後三年合戦(役)」を考える  
 秋田大学教育文化学部教授 前田 亮介

15:30～ 秋田大学と市民との懇談会  
 会場：横手市民会館 対象：一般市民

大学図書館体験  
 秋田大学教育文化学部教授 佐藤 隆  
 秋田大学教育文化学部教授 辻 直  
 対象：横手市立高田中学校1・2年生

講演会・懇談会への申し込み **参加無料**  
 横手市史蹟さん亭  
 TEL: 0182-35-5722 FAX: 0182-36-3960  
 表紙の申込用紙に必要事項を記入し、上記申し込み先へFAXを送付するが、電話でお問い合わせください。

問い合わせ先 (秋田大学) 社会貢献・国際交流課 〒010-8502 秋田市平手学園町1-1 TEL: 010-850-6020  
 (横手市役所) 総務企画課市民公民室 〒012-0001 横手市高田町2番地 TEL: 0182-35-5722

美の国秋田の探訪—美人・資源・美酒—

# 2008年度 秋田大学 地域アカデミー 美人 資源 美酒

2008.9.29(月)～10.5(日)

主催 国立大学法人 秋田大学  
 株式会社 ジェイティービー

後援 秋田県・秋田市・湯上市・仙北市・秋田県観光連盟  
 秋田観光コンベンション協会

## 中国甘肅省・秋田県・秋田大学連携特別講演会 —特別展示「平田篤胤・著述板木」—

第2回を数える連携特別講演会の目玉は中国語(甘肅省の書物文化)と秋田語(秋田県の平田篤胤書物文化)の対比セッションです。今回の特別展示の目玉は協力3機関主催の「平田篤胤・著述板木」及び高麗関係の書物文化財約六十点を一堂にそろえます。これらによって今回は書物の文化を考へ、また篤胤の学問や人となり「高門内『古今五百載』一人、平田一万里の歩み」など)を知る、良い機会となることでしょう。講演会開催、展示参加費は無料です。多岐のご連絡をお願いします。

開催日 平成20年12月20日(土) 会場 秋田大学教育文化学部

特別講演会 13:00～15:50 会場:教育文化学部3号館145教室  
**甘肅地区青銅器文化**  
 講師: 党 宋華 氏(秋田県歴史文化財センター交流員・甘肅省文物考古研究所員)  
 通訳: 高 幸峰 氏(東北公益文化大学准教授)  
**国学大人・平田篤胤を論ず**  
 講師: 齊藤 善胤 氏(平田篤胤佐藤信淵研究所非常勤研究員)  
**秋田における生涯学習論**  
 講師: 白海 一紀 氏(秋田大学コーディネーター)  
 総合司会 石川 三佐男(秋田大学教授)

特別展示 10:00～14:00 会場:教育文化学部3号館150教室  
 秋田県立図書館・秋田県立博物館・横濱神社所蔵の板木・寫真複製、刷り本等を特別展示します  
 展示内容(展示時間) 展示場所  
 ① 高麗関係の書物文化財約六十点(展示時間:10:00～14:00) 展示場所:秋田県立図書館(秋田県秋田市)  
 ② 平田篤胤の著述板木(展示時間:10:00～14:00) 展示場所:横濱神社所蔵の板木・寫真複製(秋田県横濱町)  
 ③ 刷り本(展示時間:10:00～14:00) 展示場所:秋田県立図書館(秋田県秋田市)  
 ④ 平田篤胤の著述板木(展示時間:10:00～14:00) 展示場所:秋田県立図書館(秋田県秋田市)  
 ⑤ 刷り本(展示時間:10:00～14:00) 展示場所:秋田県立図書館(秋田県秋田市)  
 ⑥ 平田篤胤の著述板木(展示時間:10:00～14:00) 展示場所:秋田県立図書館(秋田県秋田市)  
 ⑦ 刷り本(展示時間:10:00～14:00) 展示場所:秋田県立図書館(秋田県秋田市)

展示担当 齊藤 善胤 氏

問い合わせ先: 秋田大学教育文化学部石川研究室  
 〒010-8502 秋田市平手学園町1-1  
 Tel/Fax 018-889-2610

**聴講無料 申し込み不要**

主催: 秋田大学 / 協力: 秋田県立図書館・秋田県立博物館・横濱神社平田篤胤佐藤信淵研究所  
 後援: 中国甘肅省文物局・秋田県・秋田県教育委員会・秋田市教育委員会・秋田魁新報社

☆参加無料!  
 ☆申込が必要です。

## 平成20年度 秋田大学子ども見学デー —ドキドキ☆ワクワク☆大学探検隊!—

◇プログラム◇

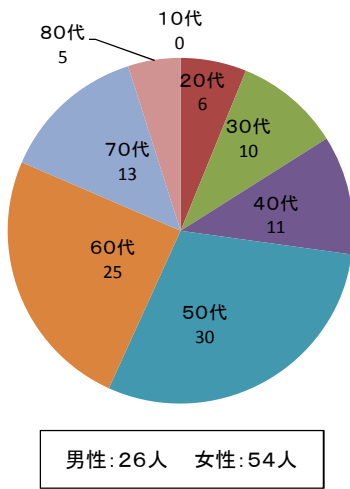
- ☆学長室の見学
- ☆コースにわかれて見学
  - 教育文化学部コース
  - 工学資源学部コース
  - 附属図書館コース
  - 医学部コース
  - 鉱業博物館コース
  - 総合情報処理センターコース
- ☆鉱業博物館の見学

日時 平成20年 8月19日(火) 申込期間: 6月23日(月)～8月1日(金)  
 8時45分～12時30分 問い合わせ・申込はこちら  
 集合場所: 秋田大学工学資源学部 1号館共127講義室  
 秋田大学社会貢献・国際交流課  
 〒010-8502 秋田市平手学園町1-1  
 Tel 018-889-2270 Fax 018-889-3012  
 Eメール syakoku@jimu.akita-u.ac.jp  
 秋田大学ホームページ  
 http://www.akita-u.ac.jp/

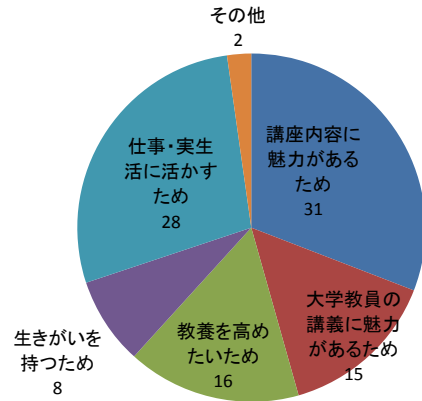
対象: 小・中学生 (保護者同伴でお願いします)  
 募集人数: 150人  
 定員になり次第、締め切りいたします。

# 平成20年度公開講座 アンケート集計結果

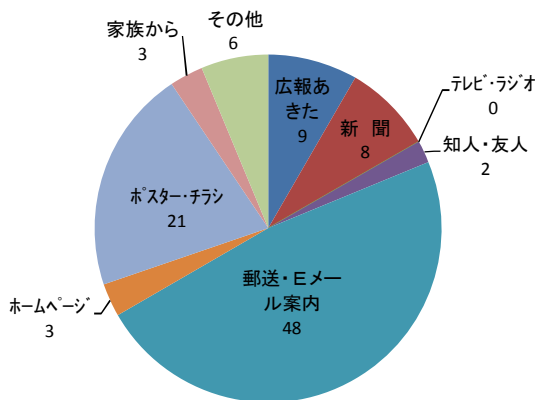
1. 受講者の年齢(単位:%)



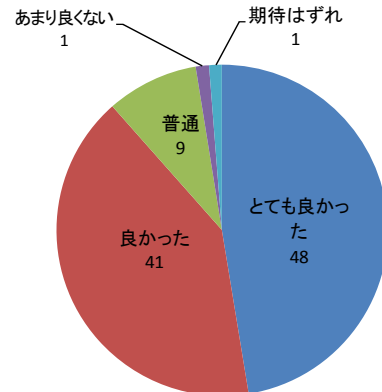
2. 受講した目的(複数回数可・単位:%)



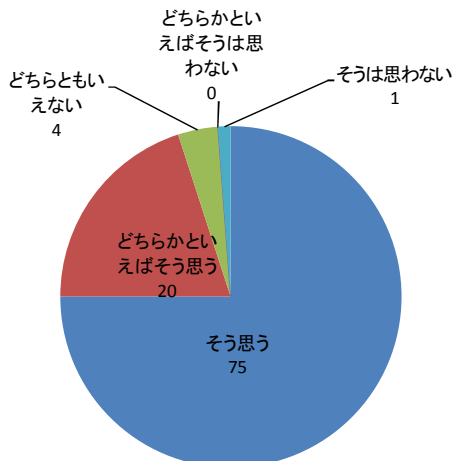
3. 公開講座を何で知ったか(複数回数可・単位:%)



4. 講座の内容・方法について(単位:%)



5. 受講後、講座のテーマに対する興味が増したか?(単位:%)



## 平成20年度公開講座アンケート集計結果について

### 1. 受講生の年齢・性別について

受講者は50代と60代が過半数を占めている。また、女性の受講者数が、男性の受講者数の2倍以上であった。シニア世代の学びの意欲が高く、また女性では特に主婦が多数受講している。一方、20代～40代は働き盛りでもあるためか、受講者数は少なめである。当面、団塊世代の退職が続くこともあり、シニア世代の受講者数は今後ますます増えるのではないかと見込まれている。ただし、職業へ直結する専門的な内容の場合、特に年齢には関係なく受講者が集まった。

### 2. 受講した目的

多くの方が、講座内容に魅力を感じて受講している。また、仕事・実生活に活かすことを目的に受講している方も多いことから、教養を得るためだけの参加ではなく、専門知識の再学習を目的とした参加であることも分かる。専門的な内容である場合、広い年齢層からの受講が見込まれることから、今後も教養講座だけでなく専門的講座を設けて講座内容を充実させる必要がある。

### 3. 公開講座を何で知ったか

周知方法としては、公民館や図書館等の各種生涯学習施設や過去受講者へのダイレクトメール送付、近隣郵便局や銀行におけるチラシ・ポスター設置等を行っている。受講者の多くが「郵送・Eメール案内」で公開講座の情報を得ていることから、リピーターが多く受講していることが分かる。ポスターやチラシについては、秋田県庁や郵便局など様々な場所で目にしているようである。新規受講者も毎年一定数いることから、今後も周知活動を早い時期から工夫して行っていきたい。

### 4. 講座の内容・方法について

「とても良かった」「良かった」を合わせると90%近くを占めており、多くの方々に満足してもらえる講座内容だったと考えられる。ただし、豊富な内容の講義の場合には限られた時間の中では急ぎがちとなるため、自由記載欄でも「時間が足りなかった」「もう少し話が聞きたかった」などの意見がある。全体的に受講生の学びの姿勢は真摯であり、それに応えるべく今後も講義内容を充実させていきたい。

### 5. 受講後、講座のテーマに対する興味が増したか

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると90%超を占める。関心のある講座を受講し、知識を会得することによっていっそう興味を増したようである。会得した知識を日常生活や職務へ活かし、ひいては秋田大学の教育の質や、秋田大学の研究内容により関心をもつてくれることを期待したい。



秋田大学社会貢献推進機構活動報告  
(平成20年度)

秋田大学社会貢献推進機構編集・発行  
平成21年3月

〒010-8502 秋田市手形学園町1-1

Tel 018-889-2270

Fax 018-889-3194

E-mail [shakoken@jimu.akita-u.ac.jp](mailto:shakoken@jimu.akita-u.ac.jp)



AKITA UNIVERSITY